

# キハダ 大西洋

Yellowfin tuna *Thunnus albacares*



## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7～10 歳 (18 歳の可能性もある)
- 性成熟年齢：3 歳 (50%成熟年齢)
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

## 利用・用途

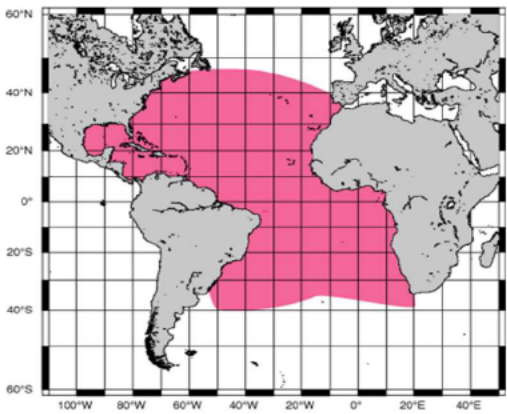
刺身、すし、缶詰等

## 漁業の特徴

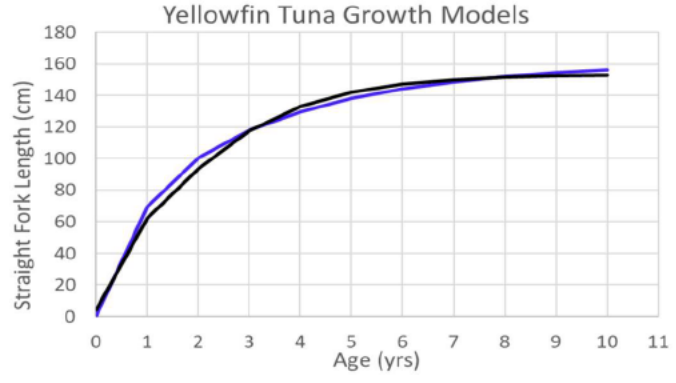
大西洋におけるキハダ漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃から釣り及びはえ縄漁業が開始された。当初ははえ縄の漁獲が多くを占めたが、最近年はまき網が主となっている。主漁場は熱帯域であり、特に東部大西洋からの漁獲が多い。近年はまき網の人工浮き魚礁 (FAD) 操業の漁場が拡大し、南は西アフリカ沿岸の南緯 15 度付近、北はモーリタニア沖合の北緯 15 度付近まで広がっている。はえ縄は大西洋のほぼ全域で操業が行われている。釣り漁業は東部、西部大西洋の沿岸部で行われている。日本は、主に熱帯域においてメバチを主対象としたはえ縄操業で本種を漁獲している。

## 漁獲の動向

本種の総漁獲量は、当初から 1970 年代までは概ね増加傾向にあり、1980 年以降は概ね 10 万～20 万トン間で変動し、最近 5 年間では全漁獲量のうちおおよそ 68%がまき網、13%がはえ縄、5%が釣りにより漁獲されている。1990 年に漁獲量のピーク (約 19.4 万トン) が記録された後、減少傾向に転じ、2000 年代半ば以降は横ばいもしくは増加し、2023 年には増加して約 14.0 万トン (予備集計) となった。最近 5 か年の日本の漁獲量は 0.3 万～0.4 万トン前後で、大きな年変動はみられない。



大西洋におけるキハダの分布域

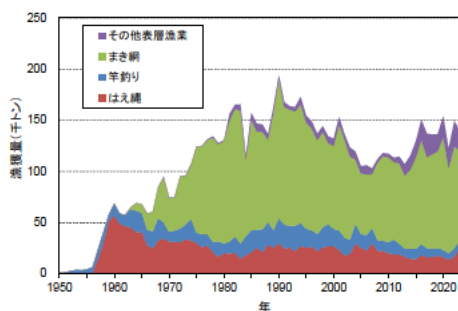


大西洋におけるキハダの成長曲線

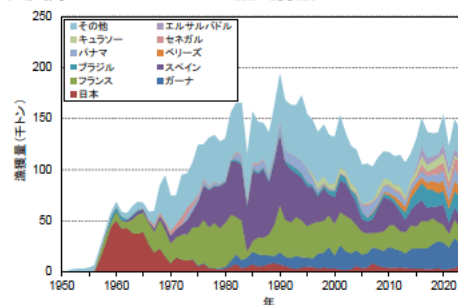
資源状態	
最新の資源評価は ICCAT により 2024 年に行われた。資源評価モデルは、統合モデル (Stock Synthesis 3 : SS3) が用いられた。最大持続生産量 (MSY) は 12.1 万トン (80%信頼区間 : 10.7~18.8) と推定され、2022 年の時点で、資源量は MSY レベルより大きく ( $SSB_{2022}/SSB_{MSY} = 1.37$ (0.91~2.15))、漁獲率はほぼ MSY を下回り ( $F_{2022}/F_{MSY} = 0.89$ (0.40~1.46))、資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもないとされた。将来予測は、将来的な漁獲量を 14 万トン (現状の漁獲量) と仮定した場合、2034 年 (10 年後) に資源状態が神戸プロットのグリーンゾーンに位置する確率は 41%、11 万トン (総漁獲可能量 (TAC)) と仮定した場合、同確率は 74% と推定された。	

管理方策	
ICCAT において 11 万トンの TAC が設定されているが、国・地域別割当は設定されていない。ICCAT では、2014 年に採択された管理措置以降、熱帯まぐろを漁獲する漁船の ICCAT への登録、FAD 操業の禁漁区・禁漁期等が設定されている。まき網等の FAD 操業については、2024 年の ICCAT 年次会合において、従来の条約区域全体での 72 日間の FAD 禁漁を、2025 年のみ 45 日間にする事とし、2026 年以降の措置については、2025 年の科学委員会の評価を基に 2025 年に検討することとなった。また、一隻あたりの FAD 数の上限について、従来の 300 基から 2026~2027 年は 288 基まで削減することとなった。	

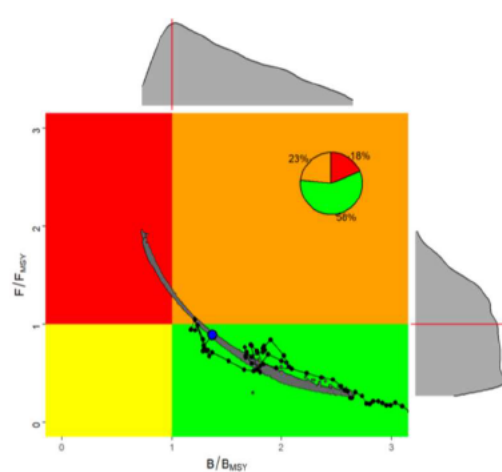
キハダ (大西洋) の資源の現況 (要約表)	
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	12.2 万~15.4 万トン 最近 (2023) 年 : 14.0 万トン 平均 : 14.0 万トン (2019~2023 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.3 万~0.7 万トン 最近 (2023) 年 : 0.7 万トン 平均 : 0.4 万トン (2019~2023 年)
資源評価の方法	統合モデル (Stock Synthesis 3)
資源の状態 (資源評価結果)	$SSB_{2022}/SSB_{MSY} : 1.37$ (0.91~2.15) $F_{2022}/F_{MSY} : 0.89$ (0.40~1.46) 2022 年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない
管理目標	MSY : 12.1 (10.7~18.8) 万トン
管理措置	TAC (11 万トン) 条約区域全体での 45 日間の FAD 禁漁 (2025 年) FAD 数制限 300 基/隻 (2025 年)、 288 基/隻 (2026~2027 年)
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2024 年
次回の資源評価年	未定



大西洋におけるキハダの漁法別漁獲量 (1950~2023 年)



大西洋におけるキハダの国別漁獲量 (1950~2023 年)



資源評価モデルによる大西洋キハダ資源の解析結果  
 青丸は 2022 年の状態を示し、灰色で塗りつぶされた範囲はその 95%信頼区間を示す。黒丸を結ぶ線は、状態の年変動を示す。縦軸は漁獲率、横軸は資源量で現状/持続可能な値の比で示す。神戸プロットの上側と右側に、それぞれ横軸、縦軸についての頻度分布図を示す。